

I. 平成23年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間：平成21年12月～平成27年3月(5年4月)

1. 概況

平成21年12月に認定を受けてから2年が経過し、目標としている「にぎわいの創出」及び「まちなか居住の推進」に向けての取り組みを実施している。

「にぎわい創出」については、平成22年4月から毎月第一日曜日に開催している「大垣中心市街地商店街元気ハツラツ市」が予想以上の好評で、目標数値の達成が確実と思われる。今後も商店街との連携により中心市街地の更なる魅力向上に向けての取り組みを実施していく。

「まちなか居住の推進」については、平成21年12月に民間分譲マンションが販売開始となり、平成24年3月現在で、92.7%の入居率となっている。

しかしながら、製造業が多い本市では、平成20年のリーマンショックの影響を受け、契約社員の大量解雇などによる転出者が増加し、市全体として平成21年3月には前年から△1,540人（人口の0.9%）の人口減少となった。特に、外国人労働者の解雇、帰国が顕著で、△1,649人（外国人人口の22.4%）と大幅な人口減少となった。中心市街地在住の外国人についても、それに比例して△60人（中心市街地外国人人口の25.9%）と人口が減少し、中心市街地人口減の大きな要因となっている。

また、中心市街地内の大規模工場の閉鎖も人口減少の要因といえる。平成20年中にオーミケンシ大垣工場が閉鎖となり、社宅の居住者等が移転を余儀なくされ、確認できるだけでも前年比△70名の人口流出となった。

以上のことが主な要因となり、平成20年比△4.3%と計画策定時の見込みを上回るペースで人口減となっている。

この大きな人口流出については、想定外の事象であるため、対策するに至っていない。

今後は、大垣駅南街区市街地再開発事業の完結や民間住宅供給の支援策などにより、人口増が見込める事業を実施するものの、目標達成に至らない恐れがあるため、新たな定住策も検討していく必要がある。

基本計画に位置づけられた70事業のうち14事業が完了し、ソフト事業など53事業が現在実施中で、未完了が3事業(未着手)である。

## 2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
観光・交流拠点の整備や商業機能の再生による「にぎわいの創出」	休日歩行者・自転車通行量	9,400人 (H21)	9,700人 (H26)	8,250人 (H23)	—	①
都市基盤の推進による「まちなか居住の推進」	中心市街地 居住人口	9,414人 (H20)	9,537人 (H26)	8,831人 (H24)	—	②

注) ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

## 3. 目標達成見通しの理由

### ① 休日歩行者・自転車通行量

平成24年3月に実施した通行量調査の計測数値は、計測日が天候不良であった影響により、前年から大幅に下落した。しかし、ほぼ計画どおり事業が進捗し、その効果が表れていることから、目標達成可能であると認められる。

### ② 中心市街地居住人口

大垣駅南市街地再開発事業など、計画期間後半に完了事業があるため、現状としては計画通りの事業進捗といえる。ただし、当初の予想以上に居住人口の減少が進んでおり、計画通りの事業では目標達成は見込まれず、今後対策を講じていく必要がある。

## 4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない。

## 5. 今後の対策

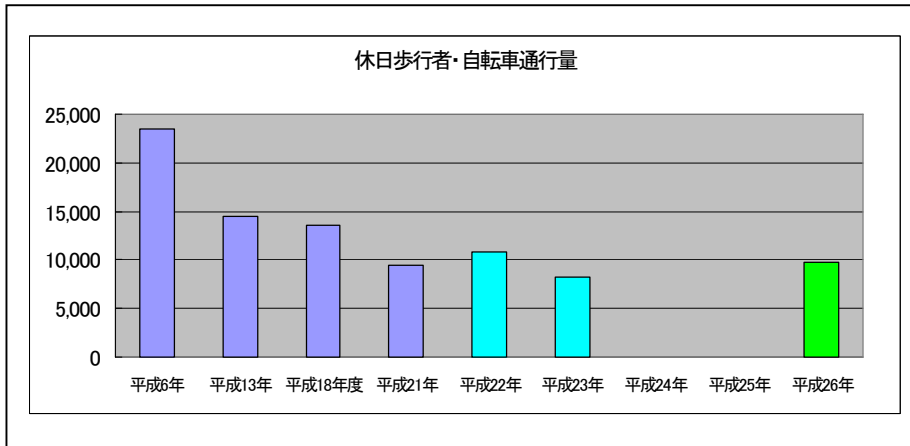
基本計画のメインとなる事業である大垣駅南街区市街地再開発事業が、今後本格的に実施され、中心市街地の様子が大きく変わり、注目を集めることとなる。再開発による人口増加及び周辺への波及効果を与えることが望まれ、にぎわいを取り戻すものと思われる。

今後は各事業の検証を行い、必要に応じて新規事業を構築し、目標達成を確実なものにしていく。

## II. 目標 1 観光・交流拠点の整備や商業機能の再生による「にぎわいの創出」

「休日歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P54～P59 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(単位:人)
H21	9,400 (基準年値)
H22	10,833
H23	8,250
H24	
H25	
H26	9,700 (目標値)

※調査方法；歩行者通行量調査（毎年度3月実施）

※調査月；平成24年3月実施、取りまとめ

※調査主体；大垣市

※調査対象；歩行者及び自転車通行者、休日8地点

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ① 大垣駅南街区第一種市街地再開発事業（大垣駅南街区市街地再開発準備組合）

事業完了時期	【未】平成26年度
事業概要	大垣駅南口の老朽化したビル周辺を再開発し、住宅、商業施設、自転車駐輪場、広場、駐車場等を整備する。
事業効果又は進捗状況	平成21年1月に再開発準備組合を設立し、平成22年9月には、大垣市が市街地再開発事業等の都市計画決定を行った。 平成23年度中に本組合の設立し、平成24年度中に実施設計を行い、平成26年度中に完成する予定である。

#### ② マンション建設（高砂町地内）（近鉄不動産株式会社）

事業完了時期	【済】平成21年度
事業概要	民間企業により、分譲マンションを建設する。
事業効果又は進捗状況	平成21年12月に竣工、販売開始した。 平成23年12月現在で、41戸中38戸（89人）が入居済となっている。 計画上見込んでいる事業効果は44人/日であるが、実質41人/日となり、若干下回るものの、ほぼ予定通りである。

### ③. 奥の細道むすびの地周辺整備事業（大垣市）

事業完了時期	【実施中】平成23年度（一部平成25年度）
事業概要	松尾芭蕉が奥の細道紀行を終えたむすびの地として、記念館やむすびの庭公園等を整備し、「歴史と文化の場」「観光・交流の場」の推進を図る。
事業効果又は進捗状況	この事業のメインとなる奥の細道むすびの地記念館及びむすびの庭公園などについては、平成23年度中に完成し、平成24年4月8日オープン予定であり、多くの来館者が見込まれている。記念館への来場者を四季の路整備や各種イベント等により中心市街地への回遊促進を図る。

### 3. 目標達成の見通し及び今後の対策

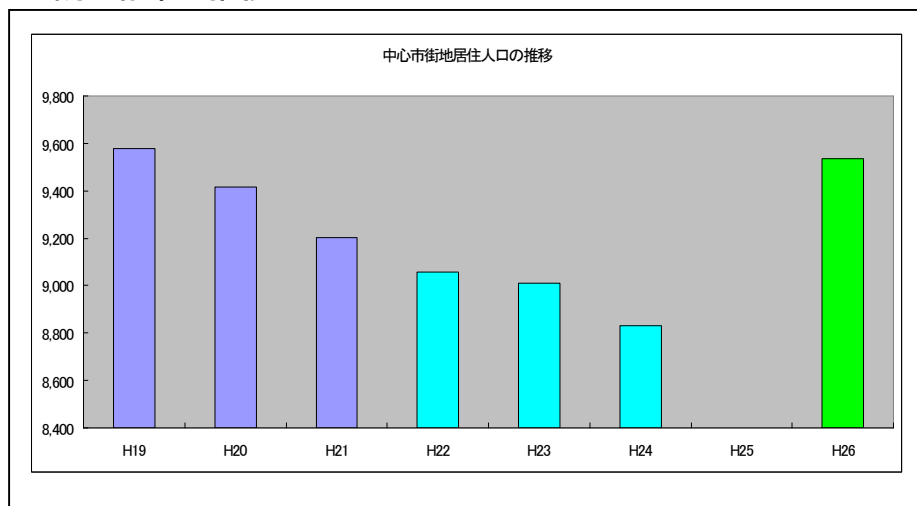
平成24年3月に実施した歩行者・自転車通行量数値は、調査当日が天候不良ということも影響し、前年の数値より下がる結果となった。

しかし、毎月第一日曜日に大垣市商店街振興組合連合会が主催で開催している元気ハツラツ市が好評を得ており、市民及び市外からの来街者が、イベント以外の休日にも中心市街地に訪れていることや、平成24年4月の奥の細道むすびの地記念館の開館や大垣駅南街区市街地再開発事業の完了など本計画の主要事業が完結することから、目標値の達成は可能であると見込まれる。

## Ⅱ. 目標 2 都市基盤の推進による「まちなか居住の推進」

「中心市街地居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P61～P62 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(単位:人)
H20	9,414 (基準年値)
H21	9,201
H22	9,058
H23	9,009
H24	8,831
H25	
H26	9,537 (目標値)

※調査方法；中心市街地領域での住民基本台帳登録人口

※調査月；平成 23 年 3 月末時点調査、4 月取りまとめ

※調査主体；大垣市

※調査対象；中心市街地内居住者

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 大垣駅南街区第一種市街地再開発事業 【再掲】P 3 参照

② マンション建設（高砂町地内） 【再掲】P 3 参照

### 3. 目標達成の見通し及び今後の対策

製造業が多い本市では、平成 20 年のリーマンショックによる世界的な経済悪化の影響を受け、外国人派遣労働者の大量解雇等による外国人の帰国や大規模工場の閉鎖などにより、予想以上の人口減少となった。

平成 24 年度には、本市で賃貸住宅に対する支援事業を実施、平成 26 年度には、大垣駅南街区市街地再開発事業の完結により、人口増加が見込まれるものの、目標達成には至らない恐れがある。

今後新たな定住対策事業を検討していく必要がある。